

## 「第2の外国語」学習指導要領（案）

### 第1 目的

複数の外国語の学習を通じて、自他の言語や文化に対する複眼的な理解を深め、文化的多様性に対する寛容な精神と、複数の価値観が会う場所での思考や行動の基盤を育成しつつ、学習した言語による聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

### 第2 各言語の目標および内容

アラビア語 .....	2
韓国・朝鮮語 .....	9
スペイン語 .....	16
中国語 .....	23
ドイツ語 .....	30
フランス語 .....	37
ロシア語 .....	44

## アラビア語

### 1 目標

- (1) アラビア語およびその背景にある文化や社会，アラビア語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的なアラビア語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的なアラビア語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的なアラビア語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的なアラビア語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) アラビア語の，特に独特の子音に慣れ，聞き取ること。
- (イ) アクセント，イントネーション，区切りなど，アラビア語の基本的な音声の特徴に慣れ，聞き取ること。
- (ウ) 場面や文脈から内容が想定される範囲で，あいさつや簡単な質問，指示，依頼，誘いなどを聞いて理解し，適切に応じること。
- (エ) 身近な話題に関する，ゆっくりと平易な表現で話され，読まれた文章を聞き，文脈に応じてその大意を掴むこと。
- (オ) 話し手に聞き返すなどして，相手の協力を得ながら，内容の理解度を高めること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) アラビア語の，特に独特の子音に慣れ，正しく発音すること。
- (イ) アクセント，イントネーション，区切りなど，アラビア語の基本的な音声の特徴に慣れ，正しく発音すること。

(ウ) あいさつや定型表現を適切な場面で用い、聞き手の協力を得ながら、簡単な短いやりとりをすること。

(エ) 身近な話題に関して、平易な表現を用いて、聞き手に伝わるように話すこと。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

(ア) アラビア文字の独立形、頭字形、中字形、尾字形、および発音記号を識別すること。

(イ) アラビア語の単語を正しく読み上げること。

(ウ) アラビア語のフレーズや短文を正しく読み取ること。

(エ) 標識や掲示、広告などから必要な情報を読み取ること。

(オ) 日常的な話題に関する初歩的な文章を、必要に応じて辞書を用いながら読み、その大意を掴むこと。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

(ア) アラビア文字の独立形、頭字形、中字形、尾字形を正しく書き分け、発音記号を正しく振ること。

(イ) アラビア語の単語を、アラビア文字と発音記号を使って書くこと。

(ウ) 自分自身や身近な話題について、辞書などにも依拠しながら、平易な表現を用いて書くこと。

(エ) パソコンなどでアラビア文字を入力すること。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に、以下の点に配慮することが望ましい。

ア 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な言語行動や非言語行動を、自ら考えて用いることができるようにすること。

イ 言語活動を行うにあたっては、(3)に示す題材内容について理解したり、(5)に示す言語材料について理解したり、それらを使って練習したりする活動を行うようにすること。

ウ 言語活動を行うにあたり、主として以下に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

[言語の使用場面の例]

a 特有の表現がよく使われる場面

・あいさつ ・自己紹介

- ・時刻，曜日，日付，月の表現　・年中行事
- ・買物　・道案内　・食事　・道路標識や看板，アナウンス　・旅行
- ・約束　・電話でのやりとり　・緊急事態の際の表現　など
- b 生徒の身近な暮らしに関わる場面
  - ・天候，季節　・家庭での生活　・学校での学習や活動
  - ・ボランティアなど学校外での活動　・地域の行事　など
- [言語の働きの例]
- a コミュニケーションを円滑にする
  - ・呼びかける
  - ・あいさつする（ジェスチャーなど非言語的コミュニケーション動作を含む）
  - ・相づちをうつ　・聞き直す　など
- b 気持ちを伝える
  - ・感謝する　・共感を示す　・褒める　・謝る　など
- c 情報を伝える
  - ・説明する　・報告する　・発表する　・描写する　など
- d 考えや意図を伝える
  - ・申し出る　・約束する　・意見を言う　・賛成／反対する　・承諾する
  - ・断る　など
- e 相手の行動を促す
  - ・質問する　・依頼する　・誘う　・提案する　・助言する　など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては，(1)に示す言語活動，(5)に示す言語材料と関連させ，次のア～キの題材内容をバランスよく取り入れることが望ましい。

- ア 生徒自身や家族，友達などの身近な人々に関する話題（例：自己紹介，家族や友達の紹介など）
- イ 学校生活に関する話題（例：通学，授業，クラス，放課後，クラブ活動など）
- ウ 学校生活以外の日常生活に関する話題（例：日常の習慣，身の回りの出来事，衣食住，買い物，休日の過ごし方，遊びなどの誘い，会う約束など）
- エ 興味・関心事，好きな物事に関する話題（例：趣味，好きなもの・こと，人など）
- オ 身体の部位や特徴，健康に関する話題（例：健康，病気，怪我など）
- カ 自然環境に関する話題（例：天気，季節，気候，環境問題など）
- キ アラビア語圏の社会や文化，もしくは日本の社会や文化に関する話題（例：習慣，家族観，衣食住，人間関係，行事，制度，歴史，時事問題など）

#### (4) 題材内容の取り扱い

題材内容を扱う際に、以下のア～ウにも配慮することが望ましい。また題材内容は、アラビア語の実践的コミュニケーション力の基礎を身につけることを念頭に置きつつ、多様なアラビア語圏の文化と社会の理解を深めるものになっていることが望ましい。さらに日本の社会や文化にも目を向けさせ、相対化の視点を通じて、「自文化」に対する理解をより深める契機となるよう努める。

##### ア アラビア語圏の多様性について

アラビア語は、全世界規模で信徒を持つイスラームとの結びつきが強い言語であるため、話者数が非常に多く、現在はアラブ連盟加盟国以外にも、アラビア語を公用語としている国もある。アラビア語を日常的に用いている人々が暮らす地域は広大で、気候、地形、民族、宗教・宗派、文化、社会、住民の生活状況などあらゆる面において多様性を内包している。そのようなアラビア語圏における多様性を認識し得るような題材を提供すること。

##### イ アラビア語圏で影響力を持つイスラームの理解の促進

多様なアラビア語圏ではあるが、現在その住民の大多数がイスラーム教徒であり、アラビア語と結びつきの強いイスラームの理解を深めるための題材を提供することが望ましい。日本ではなじみが薄いイスラームに関する基本的な知識を身につけるべく、イスラームの宗教的義務行為（礼拝、巡礼、断食など）や啓典、祭礼などを紹介する。

また、独特な食に関する禁忌事項や、偶像崇拝を禁じられたイスラーム教徒たちの間で、独自の発展を遂げた、アラビア文字による技芸など、生徒に親しみやすい話題を提供できるよう工夫すること。

##### ウ 異文化理解に資する題材

アラビア語圏は、日本とはまったく異なる文化を有しており、その異文化性を顕著に示す、特徴的な生活習慣や文化の例として、食文化や服飾、音楽や都市構造、建築物などに関する事例を複数とりあげ、生徒に社会や文化における相違の一端に触れさせるような題材を提供すること。

また、アラビア語圏の人々の考え方や価値観について、日本のそれらとの違いを理解できるような題材を提供する。その際、いずれかに優劣をつけることのないように特に注意すること。

#### (5) 言語材料

クラス等の条件に合わせて、以下に示す言語材料のうちから、学習目標を達成するのにふさわしいものを適宜選択することとする。

##### ア 音声

(ア) 子音、特にアラビア語独特の子音の発音

- (イ) 母音の発音
- (ウ) 語のアクセントや、文のイントネーション
- イ 文字と発音記号
  - (ア) 文字の独立形，頭字形，中字形，尾字形
  - (イ) 母音等を表す発音記号
  - (ウ) 終止符，コンマ，疑問符，感嘆符などの符号
- ウ 文
  - (ア) 名詞文（名詞で始まる文）
  - (イ) 動詞文（動詞で始まる文）
  - (ウ) 疑問文（hal や'a-を使った疑問文とそれ以外の疑問詞を使った疑問文）
  - (エ) 否定文（否定動詞，否定辞の用法）
  - (オ) 命令文
  - (カ) 祈願文
- エ 語
  - (ア) 500 語程度
  - (イ) あいさつや決まり文句などの定型表現
- オ 文法事項
  - (ア) 語根の概念
  - (イ) 名詞・形容詞の限定・非限定
    - a タンウィーン
    - b 定冠詞 al-
  - (ウ) 名詞・形容詞の性（男性，女性，両性）
  - (エ) 名詞・形容詞の格（主格，属格，対格）
    - a 主格，属格，対格の用法
    - b 三段変化，二段変化，三格同形
  - (オ) 名詞・形容詞の数
    - a 単数
    - b 双数
    - c 複数（規則複数，不規則複数）
  - (カ) 前置詞と前置詞句
    - a 前置詞の用法
    - b 存在表現と所有表現
  - (キ) 形容詞の用法，比較級・最上級表現
  - (ク) 人称代名詞（独立形，非分離形）
  - (ケ) 指示詞（指示代名詞，指示形容詞）
  - (コ) 疑問詞

- (サ) 名詞文, 'inna とその姉妹語
- (シ) 規則動詞
  - a 完了形
  - b 未完了形 (直説形, 接続形, 短形)
  - c 命令形
- (ス) 不規則動詞 (ハムザ動詞, 重子音動詞, 弱動詞)
  - a 完了形
  - b 未完了形 (直説形, 接続形, 短形)
  - c 命令形
- (セ) 動詞の派生形 (第 2 ~ 10 形)
- (ソ) 特殊な動詞 (kāna, laysa など)
- (タ) 受動態
- (チ) 関係代名詞
- (ツ) 名詞類の派生 (動名詞, 分詞, 場所名詞, 道具名詞など)
- (テ) 接続詞
- (ト) 条件文
- (ナ) 数詞
  - a 基数詞
  - b 序数詞
- (ニ) 副詞的表現

(6) 言語材料の取り扱い

- ア 初学者を対象とするため, 読み書きにおいては, 扱う単語や文章に発音記号 (母音記号等の表示) を振って提示することが望ましい。
- イ アラビア文字とその発音とを結びつけて指導すること。
- ウ 文法については, コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ, 言語活動と効果的に関連づけて指導すること。
- エ 文法事項の取り扱いについては, 過度な文法学習重視に陥らないよう留意し, 実際の使用場面を意識して指導にあたること。

### 3 指導上の留意点

- (1) なじみのないアラビア文字の学習には重点を置き, 時間をかけて繰り返し指導すること。
- (2) アラビア語の学習が, 文法事項や単語の暗記にとどまることなく, 運用能力の育成につながることをめざすように配慮すること。
- (3) アラビア語は, 日本語とも英語とも系統が異なる言語であるが, その学習に

あたっては、多くの生徒は中学校で3年間英語を学習しているので、その既習言語能力や知識を活用することを心がけること。必要に応じて、日本語や英語との類似点や相違点にも注意を向けさせること。

- (4) 視聴覚教材、もしくはインターネット動画などを積極的に利用して、実際に用いられるアラビア語に触れさせることを心がけること。
- (5) 他教科との連携を心がける。特に、国語、地理、歴史、音楽などとの連携に配慮すること。

#### 4 留意事項

- (1) 本学習指導要領案における「アラビア語」とは、国連公用語の1つである「正則アラビア語（フスハー）」を指す。
- (2) 日常生活で用いられる口語アラビア語（アーンミーヤ）は正則アラビア語（フスハー）とは文法面・語彙面で相違が見られ、さらに地域ごとの差異も大きい。機会があれば、そうした口語アラビア語についても、学習者の負担にならぬよう、正則アラビア語の学習に支障をきたさない程度の量やレベルで言及する。
- (3) アラビア語圏に関しては、日本では触れ得る情報が限られ、政治、社会情勢における不安定さや混乱、過激な暴力行為に関する話題ばかりがとりざたされるため、負のイメージをもたれがちである。異文化理解を進めるためには、言語や文化に関する学習を通して、アラビア語圏の人々の日常生活や伝統文化、風俗習慣などに触れることで、一面的なイメージを払拭することが必要である。

## 韓国・朝鮮語

### 1 目標

- (1) 韓国・朝鮮語およびその背景にある文化や社会，韓国・朝鮮語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的な韓国・朝鮮語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的な韓国・朝鮮語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的な韓国・朝鮮語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的な韓国・朝鮮語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 韓国・朝鮮語独特の発音，イントネーションなど，韓国・朝鮮語の音声の特徴に注意を傾け，聞き取ること。
- (イ) ゆっくり平易な表現で話されたり読まれたりする韓国・朝鮮語を聞いて，知っている単語や表現を手掛かりに，場面や文脈に応じてその意図や大意を理解すること。
- (ウ) 場面や文脈から内容が想定される範囲で，質問や指示，誘いなどを聞いて理解し，適切に応えること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして相手の協力を得ながら，内容を理解すること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 韓国・朝鮮語独特の発音，イントネーションなど，その音声の特徴をとらえ，聞き手に通じるように発音すること。
- (イ) 自分に身近な話題について，定型表現や初歩的な文法・単語など既知の表現を総動員し，自分の考えや気持ちなどが伝わるように話すこと。

- (ウ) 聞き手の協力を得ながらやりとりをすること。
- (エ) 相づちや確認のことばを用いるなど、いろいろな工夫をして話を続けること。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、韓国・朝鮮語の音に変換できること。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 手紙、メールなど身近なことが書かれた文章から書き手の意図を理解し、適切に応じること。
- (エ) 標識や掲示・広告、レシピなどから自分に必要な情報を読み取ること。
- (オ) 平易な韓国・朝鮮語で書かれた物語や説明文を、辞書で調べるなどして読み、大筋を理解すること。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、分かち書きなどに注意して書くこと。
- (イ) 聞いたことや読んだことの大切な部分をメモすること。
- (ウ) 自分自身についてや身近な事柄や体験について、既知の表現や辞書で調べた表現などを用いて書くこと。
- (エ) パソコンなどでハングル文字を入力すること。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に、以下の点に配慮することが望ましい。

- ア 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った言語行動や非言語行動を、自ら考えて用いることができるようにすること。
- イ 言語活動を行うにあたっては、(3)に示す題材内容や(5)に示す言語材料について理解したり、それらを使って練習したりする活動を行うようにすること。
- ウ 言語活動を行うにあたっては、主として以下に示すような言語の使用場面や言語の働きを理解し、使うことができるようにすること。

[言語の使用場面の例]

#### a 特有の表現がよく使われる場面

- ・あいさつ ・自己紹介 ・時刻の表現 ・曜日、月、天候、季節
- ・買物 ・道案内 ・食事 ・表示とアナウンス

- ・旅行 ・年中行事 など
- b 生徒の身近な暮らしに関わる場面
  - ・家庭での生活 ・学校での学習や活動
  - ・ボランティアなど学校外での活動 ・地域の行事 など

[言語の働きの例]

- a コミュニケーションを円滑にする
  - ・呼びかける ・あいさつする ・相づちをうつ ・聞き直す など
- b 気持ちを伝える
  - ・感謝する ・共感を示す ・褒める ・謝る など
- c 情報を伝える
  - ・説明する ・報告する ・発表する ・描写する など
- d 考えや意図を伝える
  - ・申し出る ・約束する ・意見を言う ・賛成／反対する ・承諾する
  - ・断る など
- e 相手の行動を促す
  - ・質問する ・依頼する ・誘う ・提案する ・助言する など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては、(1)に示す言語活動や(5)に示す言語材料と関連させ、次のア～キの題材内容をバランスよく取り入れることが望ましい。

- ア 生徒自身や家族、友だちなどの身近な人々に関する話題（例：自己紹介、家族・友だちの紹介など）
- イ 学校生活に関する話題（例：通学、授業、クラブ活動など）
- ウ 学校生活以外のふだんの生活に関する話題（例：日常の習慣、身の回りのできごと、衣食住など）
- エ 興味・関心事、好きな物事、したいことなどに関する話題（例：趣味、好きなもの・こと・人、将来の夢など）
- オ 健康や気候に関する話題（例：寒暖、天気予報、病気・怪我など）
- カ 韓国・朝鮮語が使用されている地域への旅行や、学校間交流などで想定されるやりとりに関する話題（例：交通機関、買い物、料理、お土産、予定、学校訪問、ホームステイ、遊びへの誘い、会う約束など）
- キ 韓国・朝鮮語が使用されている社会やその文化、もしくは日本の社会や文化を扱った題材（例：風習、衣食住、人間関係、行事、制度など）

### (4) 題材内容の取り扱い

題材内容を扱う際に、以下のア～ウにも配慮することが望ましい。

- ア 韓国・朝鮮語を使用する高校生など同年代の人々を中心に交流を行う際に、お互いの興味・関心を共有し、理解や共感が得られる活動につなげられるよう工夫すること。
- イ 韓国・朝鮮語が使用されている社会とその文化への理解とともに、生徒自身が身を置く社会との比較や内省を通じて、自他への理解を深められるよう工夫すること。
- ウ 文化、社会制度、習慣、価値観などに関する題材を扱う場合は、これらには地域差や社会階層差があり、かつ、これらが常に変化していることに留意し、固定的、一面的な理解に留まらないように工夫すること。

(5) 言語材料

(1) の言語活動は、以下に示す言語材料の中から、1の目標を達成するのにふさわしいものを、(3)の題材内容に応じ、適宜用いて行うようにする。

ア 音声

- (ア) 現代韓国の標準的な発音
- (イ) 有声音化，連音，/h/の無音化・弱音化，流音化，鼻音化，L挿入，濃音化などの音変化
- (ウ) 句，文における基本的なイントネーションなど
- (エ) 文における基本的な区切り

イ 表記

- (ア) ハングル文字
- (イ) 分かち書き
- (ウ) コンマ，ピリオド，疑問符，引用符など基本的な符号

ウ 語・慣用句

- (ア) 600語程度の語
- (イ) 안녕하십니까?, 안녕히 가세요. 고맙습니다. 어때요? 예쁘다!などの定型句

エ 文法事項

(ア) 文体と文

- a 합니다体の平叙文，疑問文
- b 해요体の平叙文，疑問文，命令文，勧誘文
- c 해体の平叙文，疑問文，命令文，勧誘文

(イ) 助詞

- a 格助詞 가/이, 에서, 에, 에게, 한테, 로/으로, 를/을, 와/과, 하고, 의, 보다, 라고/이라고
- b 副助詞 는/은, 도, 만, 까지, 부터

- c 終助詞 요/이요
- (ウ) 接辞
  - a 尊敬接辞 -시/으시-
  - b 過去接辞 -았/었/였-
  - c 推量意思接辞 -겠-
- (エ) 語尾および文法的連語
  - a 接続語尾 -고, -지만, -아서/어서/여서, -면/으면, -니까/으니까, -는데, -ㄴ 데/은 데,
  - b 文末語尾 -습니다/습니니다, -니까/습니까, -아요/어요/여요, -아/어/여, -자, -르까/을까(요), -르래/을래(요), -르게/을게(요), -죠, -지(요)
  - c 連体形語尾 (現在のみ) -는, -ㄴ/은
  - d 文法的連語
    - 세요/으세요, -십시오/으십시오, -지 않다, -지 못하다,
    - 고 싶다, -고 있다, -르/을 것이다, -르/을 수 있다,
    - 르/을 수 없다, -아도/어도/여도 되다, -면/으면 안 되다,
    - 면/으면 되다, -아야/어야/여야 되다 など
- (オ) 不規則用言
  - a 하다用言
  - b ㅂ不規則用言
  - c ㅈ不規則用言
  - d ㄹ不規則用言
- (カ) 代名詞・形式名詞・数詞・副詞
  - a 人称, 指示, 疑問を表すもの
  - b 否定, 不可能を表すもの
  - c 漢字語数詞, 固有語数詞 (連体形を含む)
  - d 單位名詞
- (6) 言語材料の取り扱い
  - ア 文字と発音とを関連づけて指導すること。音声指導にあたっては, 日本語との違いに留意しながら, 発音練習などを通して指導すること。また, 必要に応じてカナやローマ字を利用した発音表記を補助的に用いて指導することもできる。
  - イ 文字の指導にあたっては, 馴染みのない文字の習熟には時間がかかることに留意し, 学習初期の段階で正確に読み書きできることを求めず, 定型句や身近なものごとを表す単語や表現を音声として積極的に扱い, アクティビティ

を取り入れたりする中で慣れ親しみながら、段階的に習得させるようにすること。

- ウ 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう、言語活動と関連づけて指導すること。
- エ 同じ言語材料を、多様な題材内容の中で繰り返し扱うことにより、理解と定着が進むよう指導すること。
- オ 場面や状況に応じた言語活動を行えるよう、現実的な使用場面・状況と関連づけて指導すること。
- カ 学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。ただし、定型句として指導するものについては、この限りではない。

### 3 指導上の留意点

- (1) 韓国語の学習が文法事項や語彙の暗記にとどまることなく、運用能力の育成につながることをめざすように配慮すること。
- (2) ペアワーク、ロールプレイ、インタビュー、スピーチ、プレゼンテーション、作品づくりなど、学習者が主体的に取り組める様々な活動を取入れること。
- (3) 日本語や英語など既知の言語の知識や能力を活用するとともに、相互の類似点や違いに気付かせるなどして、それぞれの言語を客観的に省みることができるよう配慮すること。
- (4) 新出の単語や表現にはなるべく日本語訳を与えることが望ましいが、未知の単語や表現の理解や創出のために、辞書の活用法も指導すること。
- (5) 韓国・朝鮮語の話者を教室に招いたり、韓国の高校生と相互訪問やインターネットを通じたやりとりなどの直接交流を行ったり、韓国・朝鮮に関する実物や、映像・画像・音声などを使用して、親近感や現実味を持つことができるよう工夫すること。
- (6) 他教科との連携を心がける。特に、国語、地理・歴史、芸術、情報などとの連携に配慮すること。

### 4 留意事項

- (1) 本学習指導要領案に示す主な対象言語は、大韓民国で標準的に用いられている言語とする。ただし、朝鮮民主主義人民共和国はもとより、日本や中国、北米大陸など、世界には韓国・朝鮮語を使用する人々が多く居住する地域があることにも留意する。
- (2) 日本の社会には、様々な形で朝鮮半島にルーツのある人々が生活しており、生徒本人または家族、あるいは生徒の身近な人の中に、そういった背景を持つ者が存在する可能性があることに留意する。

- (3) 韓国・朝鮮語が使用されている地域は、地理的・歴史的に日本と最も関係の深い地域であると同時に、この地域と日本との間には様々な歴史的・政治的・社会的課題も存在することに留意する。
- (4) 指導計画の作成や題材内容・言語材料の選定にあたっては、次の資料を参照することができる。
- 『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』（公益財団法人国際文化フォーラム編，2013年）

## スペイン語

### 1 目標

- (1) スペイン語およびその背景にある文化や社会，スペイン語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的なスペイン語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的なスペイン語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的なスペイン語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的なスペイン語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的なスペイン語の音声の特徴をとらえ聞き取ること。
- (イ) ゆっくりと明確な発音で話されたり読まれたりするスペイン語を聞いて，場面や文脈に応じてその意図や大意を理解すること。
- (ウ) 場面や文脈から内容が想定される範囲で，質問や依頼，誘いなどを聞いて理解し，適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして，内容を確認しながら理解すること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的なスペイン語の音声の特徴をとらえ発音すること。
- (イ) 自分に身近な話題について，定型表現をはじめとした簡単な表現を適切な場面で用いて，自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に伝わるように話すこと。

- (ウ) 聞き手の協力を得ながらやり取りをすること。
- (エ) 聞いたり読んだりしたことについて、聞き手にその内容を伝えたり、意見を述べること。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、スペイン語の音に変換できること。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 平易なスペイン語で書かれた伝言や手紙、メールなどの短い文章を読んで書き手の意図を理解し、適切に応じること。
- (エ) 標識や掲示、広告、説明書きなどから自分が必要な情報を読み取ること。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して書くこと。
- (イ) 語と語のつながりや動詞の適切な形などに注意して短い文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、内容を要約して書くこと。
- (エ) 身近な出来事や体験したこと、自分の考えなどについて、簡単な表現を用いて書くこと。
- (オ) パソコンなどでスペイン語特有のアクセント記号やティルダ、疑問符、感嘆符などを含むスペイン語の文字を入力すること。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に、以下の点に配慮することが望ましい。

- ア 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、(5)に示す言語材料について理解したり、それらを使って練習したりする。
- イ 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて用いたり、非言語行動をとったりすることができるようにすること。
- ウ 言語活動を行うにあたり、主として以下に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

〔言語の使用場面の例〕

#### a 特有の表現がよく使われる場面

- ・あいさつと自己紹介
- ・時刻、曜日、月、天候、季節の表現
- ・買物

- ・食事 ・表示とアナウンス など
- b 生徒がスペイン語を用いる可能性のある場面
  - ・旅行 ・道案内 ・学校での学習や活動
  - ・地域の行事やボランティアといった学校外の活動 など

[言語の働きの例]

- a コミュニケーションを円滑にする
  - ・呼びかける
  - ・あいさつ（握手や抱擁の習慣など非言語のジェスチャーも含める）
  - ・相づちをうつ ・聞き直す ・話題を発展させる など
- b 気持ちを伝える
  - ・感謝する ・謝る ・苦情を言う ・褒める など
- c 情報を伝える
  - ・説明する ・報告する ・描写する など
- d 考えや意図を伝える
  - ・意見を言う ・賛成する ・反対する ・承諾する ・断る など
- e 相手の行動を促す
  - ・質問する ・依頼する ・招待する ・提案する など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては、(1)に示す言語活動、(5)に示す言語材料と関連させ、次のア～ケの題材内容をバランスよく取り入れることが望ましい。

- ア 生徒自身や家族、友だちなどの身近な人々に関する話題（例：自己紹介、家族や友だちの紹介など）
- イ 学校生活に関する話題（例：通学、授業、クラス、放課後、クラブ活動など）
- ウ 学校生活以外の日常生活について（例：日常の習慣、身の回りのできごと、衣食住、買物、休日の過ごし方など）
- エ 興味・関心事、好きな物事に関する話題（例：趣味、好きな映画・音楽など）
- オ 予定などに関する話題（例：休日・休暇の予定、遊びへの誘い、会う約束など）
- カ できごと・事件の報告（例：休日・休暇の報告、見たこと・聞いたことの報告など）
- キ からだの部位や特徴、健康などに関する話題（例：健康、病気、怪我など）
- ク 自然環境に関する話題（例：天気、四季や気候、環境問題など）
- ケ スペイン語圏の社会や文化、もしくは日本の社会や文化を扱った題材（例：習慣、家族観、食事、人間関係、労働観、行事、制度、歴史、時事問題など）

#### (4) 題材内容の取り扱い

題材内容を扱う際に、以下のア～オにも配慮することが望ましい。また題材内容は、スペイン語の実践的コミュニケーション力の基礎を身につけることを念頭に置きつつ、多様なスペイン語圏の文化と社会への理解を深めるものになっていることが望ましい。さらに日本の社会や文化にも目を向けさせ、相対化の視点を通じて、「自文化」に対する理解をより深める契機となるよう努める。これらを通して、多様なものの見方や考え方を理解し、客観的で公正な判断力を養い、豊かな心情を育み、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うものとなるよう努める。

##### ア スペイン語圏の多様性について

気候、地形、文化の多様性を理解できるように、生活習慣や文化の例で特に親しみやすいもの（食事、音楽、スポーツ、娯楽など）を複数提供する。

##### イ スペイン語圏の人々や文化に対する型にはまった見方を取り除くための題材

「ラテン系」などといった名称から、スペイン語圏の多様性を無視し、ひとまとめにしてとらえる傾向があるため、それを是正するような題材を提供する。

##### ウ 異文化理解に資する題材

スペイン語圏の人々の考え方や価値観について、日本のそれらとの違いを理解できるような題材を提供する。その際、いずれかに優劣をつけることのないように特に注意する。

##### エ スペイン語圏の周辺地域について理解を深める題材

スペイン語と他のロマンス諸語との言語的な近さ、文化の近さ、現代社会におけるつながりの深さを理解できる題材を提供する。

##### オ スペイン語圏と日本との関係についての題材

社会科（地理・歴史）の学習内容に関連づけて、スペイン語圏と日本の関係について調べる学習を導入する。また、日本に居住するスペイン語を母語とする人を含めた多様な文化的背景を持つ人々についての理解を深めるための題材を提供し、偏見や差別の意識を抱くことのないようにわかりやすく説明する。

#### (5) 言語材料

(1) の言語活動は、使用する教材・教室の条件に合わせて、以下に示す言語材料の中から、学習目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行うこととする。なお、本学習指導要領案でいう「スペイン語」とは、文法事項に関してはスペインのスペイン語に基づいたものとするが、語彙や表現についてはラテンアメリカ各地を含めた多様なスペイン語の実体を反映したものとする。

## ア 音声

- (ア) 語, 句, 文の発音
- (イ) 語の強勢 (アクセント)
- (ウ) 文における基本的なイントネーション

## イ 文字および符号

- (ア) アルファベットの活字体の大文字および小文字
- (イ) 終止符, コンマ, 疑問符, 感嘆符, 引用符などの基本的な符号
- (ウ) アルファベットの読み方と母音, 子音の発音

## ウ 語彙と成句

- (ア) 800 語程度の語
- (イ) *delante de, detrás de, encima de, después de, antes de, cerca de* などの位置関係を表す定型表現
- (ウ) *Buenos días, gracias, de nada, lo siento, bienvenido(a)(s), Me llamo～.* などのあいさつ, 自己紹介などでよく使う慣用表現

## エ 文法事項

- (ア) 動詞を除く基本的な品詞と用法
  - a 名詞と形容詞
  - b 性数変化
  - c 冠詞
  - d 主語人称代名詞
  - e 指示詞と所有詞
- (イ) 動詞と活用
  - a *ser, estar, hay* の使い分け
  - b 規則活用動詞
  - c 不規則活用動詞でよく使うもの: *ir* (行く), *venir* (来る), *tener* (持つ) など
  - d 語幹母音変化動詞: *poder* (～できる), *querer* (～したい, 欲しい), *pedir* (頼む) など
  - e 意味の使い分けで注意が必要な動詞: *saber* と *conocer* (知っている)
  - f 間接目的格代名詞 + *gustar* (a...) ～ (...は～が好きです)
  - g 単人称動詞 *llover* (雨が降る)
- (ウ) 動詞の時制など
  - a 直説法現在
  - b 人称に合わせた動詞の活用
  - c *haber* + 過去分詞 を用いた現在完了
- (エ) 文と文のしくみ



### 3 指導上の留意点

- (1) スペイン語の学習が文法事項の知識や語彙の暗記にとどまることなく、運用能力の育成につながることをめざすように配慮すること。
- (2) スペイン語学習にあたっては、多くの生徒は中学校で3年間英語を学習しているので、その既習言語能力や知識を活用することを心がけること。
- (3) 文法指導では、日本語や英語と用法が異なる文法事項に注意すること。
- (4) ICTを用いて生徒に積極的に生のスペイン語に触れさせるようにすること。
- (5) 他教科との連携を心がける。特に、国語、地理、歴史、音楽などとの連携に配慮すること。

### 4 留意事項

スペイン語は、20以上の国と地域で使用される言語であり、語彙や表現、発音やイントネーションなどに地域的な多様性もある。しかし一方で、文法構造などには共通性もあるため、汎用性の高い知識を有していれば、多様性に対応することが可能である。そのため本学習指導要領案に基づく指導現場では、文法的により汎用性が高く、世界のスペイン語教育で一般的に用いられている、スペインで使われているスペイン語を用いることとする。その上で、多様性を意識させる工夫を行うこととする。日本で生活していると、大きな事件や事故、災害のニュースばかりが入ってくるスペイン語圏について、偏見を持つことなく、身近に感じられるようになることが重要である。そのためには、多くの人々が多様な地理的環境の中で日常生活を送っていることを実感し、そうした人たちが多様な文化を育み、さまざまな生活習慣を有し、多様な考え方を持っていることに思いを馳せられるような想像力を持って考えられる力を育むことが重要である。

なお、本学習指導要領案では、この言語の名称として、現代日本で一般的に通用しているスペイン語という名称を用いるが、イスパニア語やカスティーリャ語と呼ばれる言語と同じものを指す。

## 中国語

### 1 目標

- (1) 中国語およびその背景にある文化や社会，中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的な中国語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的な中国語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的な中国語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的な中国語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 声調，文レベルの強勢，イントネーション，区切りなどに注意し，中国語の基本的な音声の特徴をとらえ聞き取ること。
- (イ) ゆっくり平易な表現で話されたり読まれたりする中国語を聞いて，知っている単語や表現を手掛かりに，場面や文脈に応じてその意図や大意を理解すること。
- (ウ) 場面や文脈から内容が想定される範囲で，質問や指示，誘いなどを聞いて理解し，適切に応えること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして相手の協力を得ながら，内容を理解すること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 声調，文レベルの強勢，イントネーション，区切りなどに注意し，中国語の基本的な音声の特徴をとらえ発音すること。
- (イ) 自分に身近な話題について，定型表現や学習した表現を駆使し，自分の考えや気持ちなどが伝わるように話すこと。

- (ウ) 聞き手の協力を得ながらやりとりをすること。
- (エ) 相づちや確認のことばを用いるなど、いろいろな工夫をして話を続けること。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) ピンインの助けを借りながら、漢字（簡体字）を見て中国語の音に変換できること。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 手紙、メールなど身近なことが書かれた文章から書き手の意図を理解し、適切に応じること。
- (エ) 標識や掲示・広告、レシピなどから自分に必要な情報を読み取ること。
- (オ) 平易な中国語で書かれた物語や説明文を、辞書で調べるなどして読み、大筋を理解すること。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 日本の漢字との違いに注意して書くこと。
- (イ) 聞いたことや読んだことの大切な部分をメモすること。
- (ウ) 自分自身についてや、身近な事柄・体験について、定型表現や学習した表現を中心に、辞書で調べた表現なども用いて書くこと。
- (エ) パソコンなどで中国語をピンイン入力すること。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に、以下の点に配慮することが望ましい。

- ア 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現や非言語行動を、自ら考えて用いることができるようにすること。
- イ 実際に言語を使用して互いの気持ちや考えを伝え合うなどの活動を行うとともに、活動の目標を達成するために必要な言語材料（(5)に例を示す）について理解したり、それらを使って練習したりする活動を行うようにすること。
- ウ 言語活動を行うにあたっては、(3)に示す題材内容や(5)に示す言語材料などを用い、主として以下に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

[言語の使用場面の例]

- a 特有の表現がよく使われる場面
  - ・あいさつ ・自己紹介 ・時刻の表現 ・曜日, 月, 天候, 季節
  - ・買物 ・道案内 ・食事 ・表示とアナウンス ・旅行
  - ・年中行事 など
- b 生徒の身近な暮らしに関わる場面
  - ・家庭での生活 ・学校での学習や活動
  - ・ボランティアなど学校外の活動 ・地域の行事 など

[言語の働きの例]

- a コミュニケーションを円滑にする
  - ・呼びかける ・あいさつする ・相づちをうつ ・聞き直す など
- b 気持ちを伝える
  - ・感謝する ・共感を示す ・褒める ・謝る など
- c 情報を伝える
  - ・説明する ・報告する ・発表する ・描写する など
- d 考えや意図を伝える
  - ・申し出る ・約束する ・意見を言う ・賛成/反対する ・承諾する
  - ・断る など
- e 相手の行動を促す
  - ・質問する ・依頼する ・誘う ・提案する ・助言する など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては、(1)に示す言語活動、(5)に示す言語材料と関連させ、次のア～ケの題材内容をバランスよく取り入れることが望ましい。

- ア 生徒自身や家族、友だちなどの身近な人々に関する話題(例:自己紹介, 家族や友だちの紹介など)
- イ 学校生活に関する話題(例:授業, クラス, 放課後, クラブ活動など)
- ウ 学校生活以外の日常生活に関する話題(例:日常の習慣, 身の回りの出来事, 買物, 趣味, 好きな物事, ファッションや髪型, 休日や長期休暇の過ごし方など)
- エ 様々なコミュニケーション手段に関する話題(例:日常のあいさつや遊びへの誘い, 会う約束など)
- オ 町や交通機関に関する話題(例:家や学校の周りの様子, 町の施設, 通学に利用する交通機関など)
- カ 食べ物の好き嫌いや食事の習慣など, 食生活に関する話題
- キ からだの部位や特徴, 健康などに関する話題(例:健康, 病気, 怪我など)

- ク 自然環境に関する話題（例：天気，四季や気候，環境問題など）
- ケ 中国語圏の社会や文化，もしくは日本の社会や文化に関する話題（例：習慣，家族観，食事，人間関係，労働観，行事，制度，歴史，時事問題など）

#### （４）題材内容の取り扱い

聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成するため，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。中国語を使用している人々および日本人の生活様式や行動様式，それらの背景にある価値観や考え方，地理，歴史，伝統文化や自然科学などに関するものの中から，学習者の興味・関心に根ざした身近な話題や，発達年齢に即した話題，さらには学習者の関心を喚起したり視野を広げたりする適切な題材を，変化をもたせて取り上げるものとする。

題材内容を扱う際に，以下のア～エにも配慮することが望ましい。

- ア 多様なものの見方や考え方を理解し，公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに，言語や文化に対する関心を高め，これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ウ グローバル社会の一員としての自覚を持ち，グローバル社会の特徴や直面する課題について理解したうえで，課題解決のためのスキルを運用し，多言語多文化のグローバル社会づくりへの参画ができるようになること。
- エ 文化，社会制度，習慣，価値観に関わる素材を扱う場合は，固定的，一面的な理解に留まらないように留意すること。

#### （５）言語材料

１の目標を達成するために「題材内容」や「言語活動」を設定し，それに必要な言語材料を以下に示すものの中から適宜選択する。

##### ア 音声

- （ア）現代の標準的な発音（声母，韻母，声調，軽声および変調，r化韻尾）
- （イ）語，句，文における基本的な強勢
- （ウ）文における基本的なイントネーション
- （エ）文における基本的な区切り

##### イ 文字および符号

- （ア）簡体字
- （イ）中国語表音ローマ字（ピンイン）
- （ウ）基本的な标点符号

##### ウ 語彙・表現

- (ア) 人とのつきあいでよく使う基本的な表現（あいさつ、同意、共感など）
- (イ) 「題材内容」に応じた 1000 語程度の語
- (ウ) 「題材内容」に応じた慣用表現

エ 文法項目

(ア) 文

- a 構造上の分類：単文（主述文／非主述文）・複文（接続成分を伴わない／接続詞や副詞を用いる）
- b 肯定文・否定文
- c 用法上の分類：平叙文・疑問文（当否／反復／選択／省略／疑問詞）・命令文・感嘆文・反語文

(イ) 文の成分

- a 主語
- b 述語
  - ・形容詞述語文
  - ・名詞述語文
  - ・動詞述語文
    - 目的語をとらない
    - 目的語を1つとる
    - 目的語を2つとる
    - “是”を用いる
    - “有”を用いる [所有／存在]
    - “在”を用いる
  - 連動文
    - ・存現文
    - ・“把”を用いる処置文
    - ・“被”を用いる受身文
    - ・“比”を用いる比較文
  - ・主述述語文
  - ・助動詞を用いる文
- c 目的語
- d 補語（結果補語／方向補語／様態補語／可能補語／数量補語）
- e 修飾語（接続成分“的”を用いる連体修飾語／接続成分“地”を用いる連用修飾語／接続成分“的”や“地”を用いない修飾語）

(ウ) 品詞

- a 名詞（一般名詞／時間名詞／場所名詞／方位名詞）
- b 代詞（人称代詞／指示代詞／疑問代詞）

- c 動詞（自動詞／他動詞，動詞の重ね型，離合動詞）
- d 助動詞（“想”，“要”，“会”，“能”，“可以”，“应该”，“得”など）
- e 形容詞（性質形容詞／重ね型（“好好儿”など）／“多”，“少”）
- f 数詞
- g 量詞（名量詞“个”，“本”，“张”など／動量詞“次”，“遍”など）
- h 副詞（時間副詞“已经”，“刚”／程度副詞“很”，“非常”／範圍副詞“都”，“只”／関連副詞“也”，“再”，“还”，／語気副詞“一定”／否定副詞“不”，“没”など）
- i 介詞（“在”，“从”，“给”，“离”，“跟”，“和”など）
- j 接続詞（“和”，“因为”，“所以”など）
- k 助詞（構造助詞“的”，“地”，“得”／動作態助詞“了”，“着”，“过”／文末助詞“了”，“呢”，“吗”，“吧”，“啊”，“的”など）
- l 感嘆詞（“哎呀”，“喂”など）
- m 擬声語（“哈哈”，“叮当”など）

(6) 言語材料の取扱い

- ア 文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，使用場面を意識させて指導すること。
- イ 文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連づけて指導すること。
- ウ 題材内容に沿って，同じ言語材料を繰り返し扱うことによって，言語機能に着目させながら指導すること。

### 3 指導上の留意点

- (1) 各学校においては，総合的なコミュニケーション能力獲得を意識して目標を設定し，その目標の実現を図るようにすること。
- (2) 語彙・文法表現を身につける学習活動に終わらせず，学習者中心で内容を重視した活動を通して，学習者が総合的なコミュニケーション能力を身につけられるようにすること。
- (3) 学習者が現実社会でどのようなコミュニケーション活動ができるようになったらいいかを考え，「～ができる」（能力記述文）の形で学習到達目標を設定するようにすること。
- (4) 学習者の実態や教材の内容などに応じて，以下にあげるような体験型・主体行動型・共同作業型などさまざまな学習形態を取り入れるようにすること。  
作品づくり／インタビュー／スキット／ロールプレイ／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／ショー・アンド・テル／スピーチ

- (5) 学習活動の特性を考慮して多角的に評価できるようにする。多肢選択形式等の筆記テストだけでなく、パフォーマンス評価や活動の観察、自己評価、学習者間評価、グループ評価などさまざまな評価方法の中から学習者のタイプやスタイルに合わせて選択するようにすること。
- (6) 学習者がすでに学んだことや、他教科で学習している内容をふまえたり、連続させることで、学習内容がさらに深まるようにすること。
- (7) コミュニケーション活動が、学習者にとって意味のある、現実社会に近い場面や状況のなかで行なえるよう、教室内が実社会とつながるように、学習対象言語の話者を教室に招いたり、地域や海外から実物を持ってきたり、インターネットや新聞・雑誌の情報にアクセスしたりするなどの工夫をするようにすること。

#### 4 留意事項

- (1) 本学習指導要領案における「中国語」は、言語的には「普通話」をさしている。「普通話」とは、1955年に「現代北京語の発音を標準音とし、北方方言を基礎方言とし、典型的な現代口語文による作品を文法規範とする」と定められた、中国国内で共通言語として使われている「標準中国語」のことを指す。また、中国語は、中国、台湾、シンガポールの公用語であり、世界各地に居住する華僑・華人社会も含めれば、10億人以上の人々が日常的に使用している言語であることも視野にいれる。
- (2) 取り扱う題材内容や言語材料の選定にあたっては、以下のガイドラインを参考にするとよい。

『高校中国語教育のめやす 平成11年度版』(高等学校中国語教育研究会編, 1999年)

『中国語初級段階学習指導ガイドライン』(中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会編, 2007年)

『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(公益財団法人国際文化フォーラム編, 2013年)

## ドイツ語

### 1 目標

- (1) ドイツ語およびその背景にある文化や社会，ドイツ語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的なドイツ語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的なドイツ語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的なドイツ語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的なドイツ語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄など書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) ドイツ語の発音，イントネーションなど，ドイツ語の音声の特徴に注意を傾けること。
- (イ) ゆっくり平易な表現で話されたり読まれたりするドイツ語を聞いて，知っている単語や表現を手掛かりに，場面や文脈に応じてその意図や大意を理解すること。
- (ウ) 場面や文脈から内容が想定される範囲で，質問や指示，誘いなどを聞いて理解し，適切に応えること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして相手の協力を得ながら，内容を理解すること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) ドイツ語の発音，イントネーションなど，その音声の特徴をとらえ，聞き手に通じるように発音すること。
- (イ) 身近な話題について，定型表現をはじめとする既知の表現をうまく活用して，自分の考えや気持ちなどが伝わるように話すこと。

- (ウ) 聞き手の協力を得ながら、やりとりをすること。
- (エ) 相づちや確認のことばを用いるなどいろいろな工夫をして話を続けること。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が伝わるように音読すること。
- (イ) 手紙，メールなど身近なことが書かれた文章から書き手の意図を理解し，適切に応じること。
- (ウ) 標識や掲示・広告，レシピなどから自分に必要な情報を読み取ること。
- (エ) 平易なドイツ語で書かれた物語や説明文を，辞書で調べるなどして読み，大筋を理解すること。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し，文末の分かち書きなどに注意して書くこと。
- (イ) 聞いたことや読んだことの大切な部分をメモすること。
- (ウ) 自分自身のことや身近な事柄，体験について，既知の表現や辞書で調べた表現などを用いて書くこと。
- (エ) パソコンなどで，ドイツ語特有のウムラウトやエスツェットの文字も入力できるようになること。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に，以下の点に配慮することが望ましい。

- ア 言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては，再現的な練習から，具体的な場面や状況に合わせて非言語行動も取り入れながら，応用的な言語活動もできるようにすること。
- イ 言語活動を行うにあたり，(3)の題材内容に示す社会的場面や(5)に示す言語材料を用いて，以下のような言語の使用場面や言語の働きを理解し使えるようにすること。

[言語の使用場面の例]

- a 特有の表現がよく使われる場面
  - ・あいさつ ・自己紹介 ・時刻の表現 ・曜日，月，天候，季節
  - ・買物 ・道案内 ・食事 ・表示とアナウンス
  - ・旅行 ・年中行事 など
- b 生徒の身近な暮らしに関わる場面

- ・家庭での生活　・学校での学習や活動　・ボランティアなど学校外の活動
- ・地域の行事　など

〔言語の働きの例〕

- a コミュニケーションを円滑にする
  - ・呼びかける　・あいさつする　・相づちをうつ　・聞き直す　など
- b 気持ちを伝える
  - ・感謝する　・共感を示す　・褒める　・謝る　など
- c 情報を伝える
  - ・説明する　・報告する　・発表する　・描写する　など
- d 考えや意図を伝える
  - ・申し出る　・約束する　・意見を言う　・賛成／反対する　・承諾する
  - ・断る　など
- e 相手の行動を促す
  - ・質問する　・依頼する　・誘う　・提案する　・助言する　など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては、(1) に示す言語活動、(5) に示す言語材料と関連させ、次のア～ケの題材内容を、バランスよく取り入れることが望ましい。

- ア 生徒自身や家族、友だちなどの身近な人々に関する話題（例：自己紹介、家族や友だちの紹介など）
- イ 学校生活に関する話題（例：通学、授業、クラス、放課後、クラブ活動など）
- ウ 学校生活以外のふだんの生活について（例：日常の習慣、身の回りのできごと、衣食住、買物など）
- エ 興味・関心事、好きな物事に関する話題（例：趣味、好きな映画・音楽など）
- オ 予定などに関する話題（例：休日や休暇の予定、遊びへの誘い、会う約束 など）
- カ できごと・事件の報告（例：休日や休暇の報告、見たこと・聞いたことの報告など）
- キ からだの部位や特徴、健康などに関する話題（例：健康、病気、怪我など）
- ク 自然環境に関する話題（例：天気、四季や気候、環境問題など）
- ケ ドイツ語が使用されている社会や文化、もしくは日本の社会や文化を扱った題材（例：習慣、家族観、食事、人間関係、労働観、行事、環境問題、時事問題、歴史認識など）

### (4) 題材内容の取扱い

題材内容を扱う際には、ドイツの社会や文化に対する関心を広げながら、異文

化を見る際のステレオタイプ形成の問題にも触れつつ、複眼的な見方、考え方を育成するようにする。そのためには、例えば題材を「基本的領域」と「展開領域」に分け、学習者の関心を考慮しながら、以下の例のように、系統的に取り上げることも一つの方法である。

#### ア 基本領域

この領域の題材は各学年で登場するが、学年段階により異なった視点から題材を取り上げたり、より複雑なテーマを扱ったりするなどして、複眼的な見方を養い、異文化や自文化への理解を深めながら、多様な言語行動ができるようになることをめざす。

例：「学校生活」

##### a 初級の学年

- ・学校の名前や所在地（都道府県や市など）について紹介したり、尋ねたりする
- ・時間割（何曜日、何時間、科目など）を読んで理解する
- ・好きな科目や嫌いな科目について話したり尋ねたりする
- ・日本やドイツの高等学校での授業科目を比較してみる
- ・よく使用される授業用語を使い、理解できなかったことを尋ねたり、相手が理解したかを確認する など

##### b 中級から上級の学年

- ・クラブ活動や趣味について話したり尋ねたりする
- ・制服の有無やその理由について比較して考え、意見を述べる
- ・大学進学や将来の職業について希望を述べる
- ・ドイツの高等学校卒業試験（アビトゥア）と大学入学試験制度を比較し、意見を書いたり、口頭で発表する など

#### イ 展開領域

（3）の題材内容から、学習段階や生徒の関心、他の教科との関連、アクチュアルな問題などを取り上げ日本社会と比較しながら、ドイツやグローバル化する世界、そして共通の課題などへの関心を育て、複眼的な見方や考え方の基礎を養うことをめざす。

#### （5）言語材料

（1）の言語活動は、（3）に示す題材内容、（4）に示す題材内容の取扱いに応じ、以下に示す言語材料の中からふさわしいものを適宜用いて行うこととする。

##### ア 音声

（ア）現代の標準的な発音、特にウムラウトやエスツェットなど、ドイツ語に特徴的な文字を含む語や文の発音

- (イ) 語のアクセントや区切り
- (ウ) 文における基本的なイントネーション

#### イ 文

- (ア) 平叙文，疑問文，命令文，願望文，および感嘆文
- (イ) 主文，副文および副文の諸形態

#### ウ 語彙・表現

- (ア) 約 800～1000 語を学習対象とする。意味分野，学年別配分等は，(3) に示す題材内容，(4) に示す題材内容の取扱いに準じる。
- (イ) 連語・慣用表現は，基本的なものを取り上げる。
- (ウ) 汎用性のある造語法を取り上げる。

#### エ 文法事項

- (ア) 冠詞の種類，変化および用法
- (イ) 名詞の種類，変化および用法
- (ウ) 代名詞の種類，変化および用法
- (エ) 形容詞の変化および用法
- (オ) 数詞の種類および用法
- (カ) 動詞の種類，変化，時称，不定詞，分詞，話法および態
- (キ) 前置詞の種類および用法
- (ク) 接続詞の種類および用法
- (ケ) 副詞の種類および用法
- (コ) 語順

#### オ 符号

- (ア) 終止符，コンマ，疑問符，感嘆符，引用符，ハイフン，ダッシュ，ウムラウト符号，コロンのおよびセミコロン

#### (6) 言語材料の取り扱い

- ア 正書法や発音などは，標準ドイツ語を中心に取る。同時にドイツ語は，ドイツ連邦共和国，オーストリア，ドイツ語圏スイスなどヨーロッパの7つの国・地域の公用語であるという複数中心地を持つ言語であるので，その特徴への気づきも促す。
- イ 名詞や冠詞類の格の働き，特に主格（1格），直接目的格（4格），間接目的格（3格）については，発話意図や文脈を明確にしたうえでの作文練習を通じて，明示的に指導し，そこから口頭での練習へ展開するなど，学習者の既存の学習スタイルを考慮して指導することが望ましい。
- ウ 定動詞の位置については，発話意図や文脈を明確にして，書く力を伸ばすなかで，主文での「定動詞第2位」や，副文での「定動詞文末」の原則を充分

に理解し、使用できるように指導する。

- エ 枠構造など基本的な文型の扱いに関しては、例えば「動詞 2 成分」を含む次の文例のように、文構造の視覚化などを活用する。

例) 平叙文 (動詞 2 成分の文例)

文頭に主語が来た場合	定動詞 動詞第 1 成分	(主語)	副詞等の添 加語	直接目的語 /補完語	動詞 第 2 成分
Hans	möchte		jeden Tag	Fußball	spielen

オ 文法学習に際しては、例えば形容詞の変化形は表現より理解を中心にする、過去形は **sein**, **haben**, および一部の話法の助動詞のみとするなど、学習目標や学習時間に合わせて適宜選択する。

カ 文や、「ひとまとまりの発話としてのテキスト」の指導においては、コミュニケーションの相手に推測される関連知識や、談話の流れを考慮し「既知情報」「未知情報」に対応した冠詞類の使い方や配語 (語順) などへ注意を促す。

### 3 指導上の留意点

- (1) 題材中心の学習において、テーマや発話意図と関連させ、伝達機能を中心に文法学習を進める。同時に、学習者の年齢を考慮し、文法は明示的に扱う必要がある。学習者が教科書等を参考に、自分で「文法ノート」を作成するなど、文法の体系的学習も進めていき、自律学習の基礎を築くよう指導することが望ましい。
- (2) 題材内容の選択にあたっては、学習者の身近な世界から、文化比較の観点を取り入れながら学習を進める。その際、音楽や美術、歴史や社会科など他教科との連携も考え、学習への動機づけを図ること。
- (3) 初級段階では、新出語や新出表現になるべく対訳や英語訳を与える。辞書の使い方に関しては学年段階を通じて指導し、活用できるようにすること。
- (4) ドイツ語は、英語と同じ印欧語族の言語であるので、適宜、英語の既習知識を使い学習を進めるなどの工夫を行う。同時に、英語と異なる文法用語、例えば「(名詞の) 所有格」(英語) と「所有冠詞」(ドイツ語) が使用されている場合もあるので、指導の際、注意すること。
- (5) 運用力の育成に際しては、4 技能別の練習のみではなく、聞いて書く、読んだことを書いてまとめ、それを伝えるなど、できるかぎり統合的な練習を工夫すること。
- (6) 学習目標や学習環境に応じて、例えば、生徒交流が行われる際は「話す力」やプレゼンテーションに、あるいは、ドイツについて調べる際には、インターネットからの情報取得のための読解力を養成するなど、学習目標や言語活

動の重点化を図ることが望ましい。

- (7) 写真や絵を使った e-mail 交流など、情報通信技術 (ICT) の活用による学習環境づくりを試みること。
- (8) 題材内容中心の学習を進めるために、できれば各学年で1回「調べ学習」やプロジェクト・ワークを取り入れる。発表の際は、日本語使用も可能とすること。

#### 4 留意事項

- (1) ドイツ語は、明治時代の近代化において重要な役割を果たし、今日でも医学、哲学、音楽やスポーツなどでドイツ語起源の用語が使用されている。語彙学習では、そのような語彙などへの関心も育てる。
- (2) ドイツは第二次世界大戦後、冷戦下で東西に分割され 1990 年に再統一された。様々な問題を抱えながらも統合を進める欧州連合の主要国でもあり、特に戦後の隣国との協調・和解の努力は国際的にも評価されている。このような社会・文化についての学習を通じて、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高め、グローバル化する世界での国際協調の精神を養うことが望ましい。
- (3) 文法学習が単に規則変化の暗記に終わらないためには、社会的行動としてのコミュニケーションにおける「言語の働き」(伝達機能)と、文構造や文法規則との関わりを十分に考慮する必要がある。伝達機能と具現形(表現形)との関係やその難易度の判断に関しては、『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』(CEFR, 欧州評議会編, 吉島茂他訳 2004/2008年)に準じて「外国語としてのドイツ語」用に作成された次の『ドイツ語プロフィール』が参考になる。

*Profile deutsch* (eds. by Glaboniat/Müller/Rusch/Schmitz/Wertenschlag, 欧州評議会, ゲーテ・インスティトゥート, スイス, オーストリア文部省協力, 2005年)

## フランス語

### 1 目標

- (1) フランス語およびその背景にある文化や社会，フランス語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的なフランス語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的なフランス語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的なフランス語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的なフランス語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的なフランス語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。
- (イ) 明確な発音で話されたり読まれたりするフランス語を聞いて，大切な部分を聞き取ること。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
- (オ) まとまりのあるフランス語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的なフランス語の音声の特徴に慣れ，聞き手に通じるように発音すること。
- (イ) あいさつなどの定型表現を適切な場面で用いること。
- (ウ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に伝わるように話すこと。
- (エ) 聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べ合ったりな

どすること。

(オ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

(カ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読したりすること。

(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

(エ) 伝言や手紙、短い文章などを読んで書き手の意向を理解し、適切に応じること。

(オ) 標識や掲示・広告、レシピなどから自分が必要な情報を読み取ること。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切り等に注意して正しく書くこと。

(イ) 語と語のつながりや動詞の適切な形などに注意して正しく文を書くこと。

(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書くこと。

(エ) 身近な出来事や体験したこと、自分の考えや気持ちなどについて、簡単な表現を用いて書くこと。

(オ) パソコンなどでフランス語の文字入力を行うこと。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に、以下の点に配慮することが望ましい。

ア 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて用いたり、非言語行動をとったりすることができるようにすること。

イ 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、(5)に示す言語材料について理解したり、それらを使って練習したりする活動を行うようにすること。

ウ 言語活動を行うにあたり、主として以下に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

[言語の使用場面の例]

a 特有の表現がよく使われる場面

- ・あいさつ ・自己紹介 ・時刻の表現 ・曜日，月，天候，季節
  - ・買物 ・道案内 ・食事 ・表示とアナウンス ・旅行 など
- b 生徒の身近な暮らしに関わる場面
- ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 など

[言語の働きの例]

主として次の事項について指導する。

- a コミュニケーションを円滑にする
- ・呼びかける
  - ・あいさつ（握手や抱擁の習慣など非言語のジェスチャーも含める）
  - ・相づちをうつ ・聞き直す ・話題を発展させる など
- b 気持ちを伝える
- ・感謝する ・苦情を言う ・褒める ・謝る など
- c 情報を伝える
- ・説明する ・報告する ・発表する ・描写する など
- d 考えや意図を伝える
- ・申し出る ・約束する ・意見を言う ・賛成する ・反対する
  - ・承諾する ・断る など
- e 相手の行動を促す
- ・質問する ・依頼する ・招待する ・提案する
  - ・助言する など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては、(1)に示す言語活動、(5)に示す言語材料と関連させ、次のア～ケの題材内容をバランスよく取り入れることが望ましい。

- ア 生徒自身や家族，友だちなどの身近な人々に関する話題（例：自己紹介，家族や友だちの紹介など）
- イ 学校生活に関する話題（例：通学，授業，クラス，放課後，クラブ活動など）
- ウ 学校生活以外のふだんの生活について（例：日常の習慣，身の回りのできごと，衣食住，買物など）
- エ 興味・関心事，好きな物事に関する話題（例：趣味，好きな映画・音楽など）
- オ 予定などに関する話題（例：休日・バカンスの予定，遊びへの誘い，会う約束など）
- カ できごと・事件の報告（例：休日・バカンスの報告，見たこと・聞いたことの報告など）
- キ からだの部位や特徴，健康などに関する話題（例：健康，病気，怪我など）
- ク 自然環境に関する話題（例：天気，四季や気候，環境問題など）

ケ フランス語が使用されている社会やその文化，もしくは日本の社会や文化を扱った題材（例：習慣，家族観，食事，人間関係，労働観，行事，制度，歴史，時事問題など）

#### （４）題材内容の取り扱い

題材内容を扱う際に，以下のア～エにも配慮することが望ましい。また題材内容は，フランス語の実践的コミュニケーション能力の育成を中心としつつ，多様なフランス語圏の社会と文化の理解を深めるものにもなっていることが望ましい。このことにおいては，できるだけ他の教科と連携することも視野に入れる。さらに日本の社会や文化にも目を向けさせ，相対化の視点を通じて，「自文化」に対する理解をより深める契機となるよう努める。

##### ア フランス語圏の多様性について

フランス語はフランスのみではなく，ベルギー，スイスなどのヨーロッパの国々をはじめ，アフリカ諸国を含めた世界二十数カ国で「国語」として，あるいは「公用語」として使われている地理的広がり大きい言語である。また，フランコフォニー国際機構の存在も重要である。こうした多様性を実感できるような題材を提供する。

##### イ フランス語学習を通じてのヨーロッパ理解

フランス語はヨーロッパで長い間唯一の外交用語として使われた歴史を持ち，フランスは様々な問題を抱えながらも統合を進める欧州連合（EU）の主要国でもある。フランス語の学習を通じて，ヨーロッパ世界に対する理解を深めたい。また，他のロマンス諸語との言語的な近さ，文化の近さ，現代社会におけるつながりの深さを理解できる題材を提供する。

##### ウ 国際語としてのフランス語

フランス語はまた国際連合（UN）や経済協力開発機構（OECD）をはじめとする多くの国際機関での公用語・作業言語であり，フランス語学習は世界へのパスポートとなりえることを，フランス語学習を通じて伝える。

##### エ フランス語と日本との関係

フランス語とフランスは法律や軍隊など，明治以降の日本の近代化に大きな影響を与えた。また，文学，音楽，造形美術，映画，料理などを通じても影響力は変わらず，外来語としても日本社会のあちこちにフランス語が入っている。フランス語学習を通じて，フランスやフランコフォニーの社会文化に直に触れることは，翻って日本社会を振り返る目も養うことができる。

#### （５）言語材料

以下に示す言語材料のうちから，学習目標を達成するのにふさわしいものを

(3) に示す題材内容に応じて適宜選択し、(1) に示す言語活動と関連させ、伝達機能を考慮しながら指導する。

ア 音声

- (ア) 現代フランス語の標準的な発音
- (イ) 文における基本的な区切り・イントネーション
- (ウ) 基本的なリエゾンおよびアンシェヌマン

イ 文字および符号

- (ア) アルファベットの活字体および筆記体の大文字と小文字
- (イ) アクサン記号および綴字記号
- (ウ) 句読符号の基本的な用法

ウ 語彙・表現

- (ア) 1000 語程度の語
- (イ) 連語
- (ウ) 慣用表現 (例: Excusez-moi, Je suis désolé(e), Merci, Enchanté(e) など)

エ 文法事項

(ア) 文

- a 単文, 重文および複文
- b 肯定および否定の平叙文, 命令文, 疑問文

(イ) 文構造

- a 主語＋動詞の文型
- b 主語＋動詞＋属詞の文型
- c 1 主語＋動詞＋直接目的補語の文型  
2 主語＋動詞＋間接目的補語の文型
- d 主語＋動詞＋直接目的補語＋間接目的補語の文型
- e 主語＋動詞＋直接目的補語＋属詞の文型

(ウ) 品詞別文法事項

- a 名詞 (名詞の性と数および語形変化の基本的な原則)
- b 冠詞 (定冠詞, 不定冠詞および部分冠詞の基本的な種類と用法)
- c 代名詞 (人称代名詞, 不定代名詞 (on), 指示代名詞, 中性代名詞, 疑問代名詞, 関係代名詞の基本的な種類と用法)
- d 形容詞 (形容詞の性および数の語形変化の基本的な原則, 品質形容詞の比較級と最上級, 品質形容詞, 不定形容詞, 指示形容詞, 所有形容詞, 疑問形容詞および数形容詞の基本的な種類と用法)
- e 副詞 (副詞の基本的な種類と用法)
- f 動詞 (自動詞, 他動詞, 代名動詞, 非人称動詞, 助動詞 (avoir, être) および準助動詞 (vouloir, pouvoir, devoir) の基本的な種類と用法)

- g 分詞（現在分詞および過去分詞の基本的用法）
- h 接続詞（基本的な種類と用法）
- i 前置詞（基本的な種類と用法）
- (エ) 時制と法
  - 下記の活用形と基本的な用法
  - a 直説法現在，直説法複合過去，直説法半過去，直説法単純未来
  - b 条件法現在（頻繁に使用される一部のものに限る）
  - c 接続法現在（頻繁に使用される一部のものに限る）
  - d 命令法
- (オ) ジェロディフの基本的用法
- (カ) 受動態の基本的用法
- (キ) 文の要素と語順

#### (6) 言語材料の取り扱い

- ア 発音と綴りとを関連づけて指導すること。
- イ 言語材料については，学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。
- ウ 文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，使用場面を意識させて指導すること。
- エ 文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連づけて実際の場面で使えるように指導すること。
- オ 情報通信技術（ICT）などを積極的に活用し，実際の言語に触れさせながら指導すること。

### 3 指導上の留意点

- (1) フランス語の学習が文法事項の知識や語彙の暗記にとどまることなく，運用能力の育成につながることをめざすように配慮すること。
- (2) フランス語学習にあたっては，多くの生徒は中学校で3年間英語を学習しているので，その既習言語能力や知識を活用することを心がけること。
- (3) 他教科との連携を心がける。特に，国語，地理，歴史，音楽などとの連携に配慮すること。
- (4) 辞書の使い方に慣れ，活用できるようにすること。
- (5) ICTを用いて生徒に積極的に生のフランス語に触れさせるようにすること。

### 4 留意事項

フランス語は2(4)アで述べているように，地理的広がり大きい言語である。

そのため、発音や語彙、表現等にその土地固有の特徴があらわれることが多い。しかし一方で、文法構造などには共通性があるため、汎用性の高い知識を有していれば、多様性に対応することが可能である。そのため教室においては、汎用性の高いフランスのフランス語変種を指導すると同時に、多様性を意識させる工夫を行うこととする。

また、日本ではフランス語については、とかくフランスの、それもエッフェル塔やワインなどのステレオタイプ的なイメージが強いが、フランス語の学習を通じて、フランスやフランス語圏の人々の生の生活や考え方に触れることができるように心がけることが重要である。

## ロシア語

### 1 目標

- (1) ロシア語およびその背景にある文化や社会，ロシア語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち，自他の文化や社会を理解し，コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。
- (2) 初歩的なロシア語を聞いて，話し手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (3) 初歩的なロシア語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを話して，聞き手に伝えることができるようにする。
- (4) 初歩的なロシア語を読んで，書き手の考えや情報を理解することができるようにする。
- (5) 初歩的なロシア語で，自分の考えや気持ち，伝えたい事柄などを書いて，読み手に伝えることができるようにする。

### 2 内容

#### (1) 言語活動

1の目標を達成し，自らの考えや意見を互いに伝え合うことを重視した実践的なコミュニケーションを目的とした言語運用ができるよう，次の言語活動を行うようにする。

#### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢，イントネーション，区切り，日本語と異なるロシア語独自の発音など，基本的なロシア語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。
- (イ) ゆっくりと話されたり読まれたりするロシア語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
- (オ) まとまりのあるロシア語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。

#### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢，イントネーション，区切り，日本語と異なるロシア語独自の発音など，基本的なロシア語の音声の特徴をとらえ，聞き手に通じるように発音すること。
- (イ) あいさつなどの定型表現を適切な場面で用いること。
- (ウ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に伝わるように表現すること。

(エ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

(オ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

(カ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

#### ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読したりすること。

(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

(エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。

(オ) 標識や掲示・広告、レシピなどから自分が必要な情報を読み取ること。

#### エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。

(イ) 語と語のつながりや語形変化などに注意して正しく文を書くこと。

(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて感想や意見などを書くこと。

(エ) 身近な場面における出来事や体験などについて、自分の気持ちや考えなどを書くこと。

(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながり、文の構成などに注意して文章を書くこと。

(カ) パソコンなどでロシア語の文字入力を行うこと。

### (2) 言語活動の取り扱い

言語活動を行う際に、以下の点に配慮することが望ましい。

ア 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて用いたり、非言語行動をとったりすることができるようにすること。

イ 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、(5)に示す言語材料について理解したり、それらを使って練習したりする活動を行うようにすること。

ウ 言語活動を行うにあたり、主として以下に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

[言語の使用場面の例]

a 特有の表現がよく使われる場面

- ・あいさつ ・自己紹介 ・時間表現 ・曜日, 月, 天候, 季節
- ・買物 ・道案内 ・食事 (レストラン, カフェなど)
- ・市内交通 ・旅行 など

b 学校生活で使われる場面

- ・学習内容 ・意見交換 ・教室用語 ・クラブ活動 など

[言語の働きの例]

主として次の事項について指導する。

a コミュニケーションを円滑にする

- ・あいさつをする (ジェスチャーなどの非言語コミュニケーション活動を含む)

- ・呼びかける ・相づちをうつ ・聞き直す ・繰り返す
- ・話題を発展させる ・話題を変える など

b 気持ちを伝える

- ・感謝する ・苦情を言う ・ほめる ・好意を伝える ・謝る など

c 情報を伝える

- ・説明する ・報告する ・発表する ・描写する など

d 考えや意見を伝える

- ・意見を言う ・賛成する ・反対する ・承諾する ・断る など

e 相手の行動を促す

- ・依頼する ・招待する ・助言する ・提案する
- ・許可する ・禁止する など

### (3) 題材内容

指導計画の作成にあたっては、(1) に示す言語活動、(5) に示す言語材料と関連させ、次のア～ケの題材内容をバランスよく取り入れることが望ましい。

ア 生徒自身や家族、友だちなどの身近な人々に関する話題 (例: 自己紹介, 家族や友だちの紹介など)

イ 学校生活に関する話題 (例: 通学, 授業, クラス, 放課後, クラブ活動など)

ウ 学校生活以外の日常生活に関する話題 (例: 日常の習慣, 身の回りの出来事, 衣食住, 買物など)

エ 興味・関心事, 好きな物事に関する話題 (例: 趣味, 好きな映画・音楽など)

オ 予定などに関する話題 (例: 休日, 祝祭日, 長期休暇, 予定, 遊びへの誘い, 会う約束など)

カ できごと・事件の報告 (例: 昨日のこと, 休日・休暇の報告, 見たこと・聞いたこと・食べたものの報告など)

キ からだの部位や特徴, 健康などに関する話題 (例: 健康, 病気, 怪我など)

- ク 自然環境に関する話題（例：天気，四季や気候，環境問題など）
- ケ ロシア語圏の社会や文化，もしくは日本の社会や文化に関する話題（例：習慣，家族観，食事，人間関係，労働観，行事，制度，歴史，時事問題など）

#### （４）題材内容の取り扱い

題材内容を扱う際に，以下のア～ウにも配慮することが望ましい。また題材内容は，ロシア語の実践的コミュニケーション力の基礎を身につけることを念頭に置きつつ，多様なロシア語圏の文化と社会の理解を深めるものになっていることが望ましい。さらに日本の社会や文化にも目を向けさせ，相対化の視点を通じて，「自文化」に対する理解をより深める契機となるよう努める。

- ア ロシア語話者人口が最も多いのは，ロシア連邦（以下，ロシア）である。ロシアは，ヨーロッパとアジアに跨がる世界最大の国土を擁するユーラシア国家である。その特徴を考慮して，モスクワ・サンクトペテルブルクを中心としたヨーロッパロシアとシベリア・極東を中心としたアジアロシアの人々や文化・社会の違いや特徴を取り上げる。
- イ ロシア語は国連の公用語・作業言語の1つであり，現在，ロシア連邦，ベラルーシ，カザフスタン，キルギスの4カ国の公用語となっている。これらの他に，かつての旧ソ連邦を構成したウクライナ，バルト諸国（リトアニア，ラトヴィア，エストニア），コーカサス諸国（グルジア，アルメニア，アゼルバイジャン），モルドヴァ，中央アジア諸国（ウズベキスタン，カザフスタン，キルギス，タジキスタン，トルクメニスタン）でもロシア語が広く使用され，ロシア語圏（ルソフォニー）とも言うべき言語空間を形成している。そこで，ロシアの文化と社会を取り上げるだけにとどまらず，可能な範囲でロシア語圏の多様性の一端に触れさせる。
- ウ ロシアは，中国，韓国，モンゴルなどとともに東アジア地域に位置する，地理的に最も近い日本の隣国である。日本とロシアの関係は，江戸時代から現在に至るまで，文化，経済，政治，外交，科学など多種多様な歴史を有している。そこで，日露交流史という観点からの題材を取り上げ，日露関係の豊かさの一端を学べるようにする。

#### （５）言語材料

以下に示す言語材料のうちから，学習目標を達成するのにふさわしいものを（３）に示す題材内容に応じて適宜選択し，（１）に示す言語活動と関連させ，伝達機能を考慮しながら指導する。

##### ア 音声

- （ア）現代ロシア語の標準的な発音規則

- (イ) 個別的な規則による発音
- (ウ) 語, 前置詞句における強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- イ 文字および符号
  - (ア) アルファベットの活字体の大文字および小文字
  - (イ) アルファベットの筆記体の大文字および小文字
  - (ウ) 終止符, 疑問符, コンマ, 引用符, 感嘆符などの基本的な符号
- ウ 語彙・表現
  - (ア) 1000 語程度の語
  - (イ) 日常生活で常用している慣用表現
- エ 文法事項
  - (ア) 名詞の文法性 (男性, 女性, 中性)
  - (イ) 人称代名詞 (он, она, оно)
  - (ウ) 名詞の複数形 (男性・女性名詞型と中性名詞型)
  - (エ) 数詞 (個数詞と順序数詞)
  - (オ) 形容詞 (硬変化型と軟変化型)
  - (カ) 所有代名詞 (мой, твой, наш, ваш, его, её, их)
  - (キ) 疑問詞を含む疑問文
  - (ク) 疑問詞を含まない疑問文
  - (ケ) 規範的な動詞の人称変化 (第 1 型と第 2 型)
  - (コ) 単文と複文
  - (サ) 規範的な名詞の格変化 (主格・生格・与格・対格・造格・前置格, 男性・中性名詞型と女性名詞型)
  - (シ) 活動体名詞と不活動体名詞
  - (ス) 名詞の否定生格
  - (セ) ся 動詞
  - (ソ) 規範的な形容詞 (長語尾形) の格変化 (硬変化型と軟変化型)
  - (タ) 動詞のアスペクト (不完了体動詞と完了体動詞)
  - (チ) 動詞の時制 (現在, 過去, 未来)
  - (ツ) 動詞の命令法
  - (テ) 運動の動詞
  - (ト) 形容詞の短語尾形
  - (ナ) 不定人称文
  - (ニ) 無人称文
  - (ヌ) 一般人称文
  - (ネ) 関係代名詞 (который) と関係副詞 (где, куда, когда)

- (ノ) 副動詞（不完了体副動詞と完了体副動詞）
- (ハ) 形動詞（能動形動詞と被動形動詞）
- (ヒ) 形容詞・副詞の比較級（単一形と合成形）
- (フ) 形容詞・副詞の最上級（単一形と合成形）
- (ヘ) 仮定法

(6) 言語材料の取り扱い

- ア 言語材料については、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。
- イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、使用場面を意識させて指導すること。
- ウ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連づけて指導すること。

### 3 指導上の留意点

- (1) ロシア語の学習が文法事項の知識や語彙の暗記にとどまることなく、自らの考えや意見をロシア語で表現できる実践的な運用能力の育成・伸長につながるよう常に心がけること。
- (2) ロシア語学習にあたっては、多くの生徒は中学校で3年間英語を学習しているので、その既習言語能力や知識を最大限活用すること。
- (3) 音声指導にあたっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2(5)アの(ア)に示された言語材料を継続して指導すること。また音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導すること。
- (4) 文字指導にあたっては、生徒の学習負担に配慮しつつ、筆記体を指導すること。但し、ロシア語の文字は、ローマ字ではなく、キリル文字であるため、英語との言語干渉が起きやすく、習得するのに一定の困難を伴う。したがって、文字学習は、時間をかけて繰り返し指導すること。
- (5) 語および慣用表現については、使用頻度の高いものを取り上げ、活用することを通じて定着を図るようにすること。
- (6) 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。
- (7) 生徒の状況や教材の内容に応じて、コンピュータや通信ネットワーク、教育機器などを有効活用したり、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たりなどすること。
- (8) 名詞・形容詞や動詞などの語形変化を習得しない限り、単純な文章をつくり、簡単なコミュニケーションを取ることも難しいので、語形変化の基本を忍耐強く反復して学習させ、習得させるよう配慮すること。

- (9) 可能な範囲で、国語、地理、歴史、音楽、美術などの他教科との連携を図るよう心がけること。

#### 4 留意事項

ロシア語が現在公用語として使用されているのは、かつて旧ソ連であったロシア連邦、ベラルーシ、カザフスタン、キルギスの4カ国である。公用語ではないが、これら以外の旧ソ連地域もロシア語圏となっており、一定の変種が存在する。現代ロシア標準語という場合、ロシア連邦の公用語としてのロシア語を基本とする。